

# Farewell Mamiko Iwasaki



桜並木の太い幹の桜が何本か切り倒され、代わりに苗木が植えられました。またキャンパスの大掛かりな工事も進行中で ICU の新たな未来が感じられるこの頃です。

2022 年 3 月をもって 45 年間オルガニストとして務めた ICU を退職いたします。1976 年にマスターを取ってアメリカから帰国して間もなく先輩オルガニストである植田義子先生からお声掛けをいただき、立派なリーガーオルガンを備えた職場に副オルガニストとして着任しました。私は母校である立教女学院のオルガニストという仕事もありましたので ICU では主任オルガニストのもとで大学オルガニストの一人として仕事をさせていただきました。日曜礼拝、大学礼拝、卒業生の結婚式、お葬儀、記念式の演奏、オルガン講座、センター企画の催しなどオルガンを通じての数々の仕事を担当しました。特に 1991 年から携わったオルガン講座の講師として多くの学生さんとの関わりは楽しいものでした。そして連続演奏会やクリスマスコンサートにも幾度も出演させていただき、その中でもコロナ禍で一年延期の上、昨年行われた「オルガン奉獻 50 周年記念年演奏会」は忘れがたい思い出です。

ICU のリーガーオルガンは日本の戦後のオルガン史の中でも重要な存在で、このオルガンで数々のマスタークラスや新人演奏会（日本オルガニスト協会）、オルガン会議（日本オルガン研究会）が行われ日本のオルガン文化を担ってきた楽器の一つです。そんな楽器と日常的に長く関わることができたことはほんとうに幸運なことでした。オルガンは良く手入れをすれば 100 年、200 年と長生きする楽器です。ようやく半世紀を経たこの楽器が今後も必要に応じて手厚く整備され、いつまでもこの場所でこの音

色を保って ICU の音として存在するように願っています。

ICU とは週 1,2 度訪れる程度の薄い (?) 関係でしたがそれでも 45 年という月日は十分に長く、四季織り織りの自然に包まれたキャンパスを離れる寂しさは大きいものがあります。嬉しいことに今年 11 月のオルガン連続演奏会に出演のオファーをいただきました。一旦けじめをつけてから改めて一人のオルガニストとしてまたこのオルガンに向き合うことを楽しみにしています。

最後になりましたがとてもこの紙面には書ききれない各方面でお世話になったすべての方々に感謝申し上げます。特にお互い助け合い励まし合った同僚のオルガニスト、菅哲也氏には心からの謝辞と氏のこれからの健闘をお祈りします。

Some of the thick trunks of the cherry trees have been cut down and saplings have been planted in their place. There is also a major construction project underway on campus, which will give a new sense of future for ICU.

In March 2022 I will be retiring from ICU after 45 years as organist, and shortly after returning from the USA in 1976 with a Master's degree, I was asked by my senior organist, Dr. Yoshiko Ueda, to join her in the magnificent Rieger organ. I was asked by my senior organist, Ms. Yoshiko Ueda, to join her at her office, which was equipped with a magnificent Rieger organ, as deputy organist. I was also the organist at my alma mater, Rikkyo Jogakuin, so at ICU I worked as one of the college organists under the head organist. I was in charge of Sunday services, university services, graduates' weddings, funerals, memorial services, organ lectures, events organised by the Centre and many other organ-related tasks. In particular, I have enjoyed working with many students as a lecturer in organ courses since 1991. I have also performed in many concerts, including the 50th anniversary of the dedication of the organ at the Corona Peril last year after a year's delay. This is one of those memories that I will never forget.

The Rieger organ at ICU is an important part of Japan's post-war organ history, and is one of the instruments that has played a major role in Japanese organ culture, with many master classes, newcomer concerts (Japan Organists Association) and organ conferences (Japan Organ Study Group) held on this organ. I have been very fortunate to be able to work with such an instrument on a daily basis for so long. The organ is an instrument which, if well cared for, can live for 100 or 200 years. It is my hope that this instrument, which is now barely half a century old, will continue to be well maintained as required, and that it will remain the sound of the ICU for many years to come.

My relationship with the ICU has been a tenuous one, visiting only once or twice a week. But 45 years is still a long time, and I will miss the natural beauty of the campus. I am delighted to say that I have been offered a place at the organ concert series this November. I am looking forward to facing this organ again as an organist once I have settled down.

Last but not least, I would like to thank all the people who have helped me in so many ways that are beyond the scope of this article. I would especially like to thank my colleague Tetsuya Kan who has helped and encouraged me, and I wish him all the best for the future.

# ICU Organ Concert Spring 2022

2022年春シーズン オルガン演奏会

入場チケット 2,000円

チケット購入方法などにつきましてはホームページをご覧くださいか、宗教音楽センターまでお問合せください  
Please check our website or call/mail SMC for the ticket purchase.



ニコラ・プロカッチーニ  
Nicola Procaccini

4/9 (土)  
April 9, Saturday

前半では、バッハの初期の作品に焦点を当てるとともに、彼が熱心に研究していたイタリアの作曲家フレスコバルディなどの音楽をお届けします。

後半は、コラール「目覚めよ、と呼ぶ声あり」をモチーフとした、メンデルスゾーンの荘重な「聖パウロ」序曲のオルガン編曲に始まり、親しみやすく歌うような旋律の、フランク作曲「前奏曲、フーガと変奏曲」、そしてフレスコバルディの時代から受け継がれてきた対位法を駆使した、デュリュフレの印象主義的な作品をお聴きください。

The first half of the concert will focus on Bach's early works, as well as music by Frescobaldi, the Italian composer whom Bach studied intensively.

The second half of the programme begins with an organ arrangement of Mendelssohn's majestic overture to St Paul, the work based on the chorale, Sleepers Wake. Franck's Prelude, Fugue and Variations is featured by its friendly, singing melody. Also, please enjoy Duruflé's impressionistic works, using counterpoint inherited from the time of Frescobaldi.



原田 真侑  
Mayu Harada

5/14 (土)  
May 14, Saturday

前半は、フランス古典を代表する作曲家の一人であるニコラ・ド・グリニと、彼から多大な影響を受けたとされるヨハン・セバスティアン・バッハの作品を、後半は、留学先で師事したエリック・ルブラン先生と、彼の師であったガストン・リテーズの作品を演奏致します。

2020年5月に出演させていただく予定でしたが叶わず、今回改めてICUのオルガンに向き合うことができ、とても嬉しく思います。17世紀から現代までの多彩な響きをお届けできましたら幸いです。

The first half of the concert will feature works by Nicolas de Grigny, one of the most important French classical composers, and Johann Sebastian Bach, who is said to have been greatly influenced by Nicola. In the last half of the concert, I would like to play works by Eric Leblanc, who was my teacher while I was abroad, and his teacher, Gaston Litaize.

I am delighted to have a chance to play the organ at ICU this time, as my original concert planned in May 2020 was cancelled. I hope you to enjoy a wide variety of sounds from the 17th century to the present day.



山田 由希子  
Yukiko Yamada

6/11 (土)  
June 11, Saturday

おそらくは多くのオルガニストにとってバッハについての勉強は一生続く大きな課題の一つですが、それはきっと古くから多くの作曲家たちにとっても同じことだったのでしょ。そしてバッハ自身も先達の作曲家を熱心に勉強し、その影響を作品へと投影させました。彼を巡る変遷はまさに一本の太いパイプのようです。この魅力溢れるバッハの前と後、その美しい世界をICUの素敵なパイプオルガンでお届けできましたら幸いです。

Studying Bach is probably one of the greatest lifelong challenges for many organists, but it has also been for many composers throughout the ages. Bach himself studied his predecessors intensely and projected their influence on his own work. The story of evolution generated by the presence of Bach has been like a big pipe. We hope that attractive world until and after Bach, will be brought to you on the wonderful ICU pipe organ.

# 岩崎先生、 ありがとうございました

Thanks for everything you did for us,

Mamiko

岩崎真実子先生は、1977年よりICUオルガニストに就任され、礼拝での演奏、そしてオルガン講座で学生の指導にあたってられました。立教女学院のオルガニストとしても活躍される傍ら、日本オルガン研究会、日本オルガニスト協会の会長などを歴任。日本のオルガン文化の育成に貢献され、2021年には東京オリンピック・パラリンピックに際してアーツカウンシル東京より助成を受けたイベント「オルガンは回る」の実行委員長を務められました。

Mamiko Iwasaki will be retiring from the position of ICU organist after 45 years of service here. She taught numerous students at ICU, and was also organist for the St. Margaret, and served as a chairman at the Japan Association of Organists. She has been dedicating herself for the penetration of pipe organ in Japan, and managed "Circulating Organ", a sub-event of Tokyo Olympic in 2021.

直接お会いして一緒に仕事をさせていただくことが実は少なかったのですが、いつも朗らかに接して下さる先生とICUオルガニストを務めさせていただいたこと自体が幸せなことでした。大変な事が起こっても「なんとかなるわよ」と明るく乗り越えられる先生を拝しながら、私もこのようにありたいと思ってきました。これからも菅先生や皆さまとリーガーオルガンを守っていきます。心からありがとうございました。

徳岡 めぐみ (オルガニスト)

岩崎真実子先生、今年度でご退任とのこと伺い、一言御礼申し上げます。長い間、ICUのオルガン教育に関わってくださったことは、大学にとっても大きな宝になっていると思います。先生のご指導を受けた学生たちは、人間としても大きく育っているのではないのでしょうか。先生のご人格の賜物だと思います。これからも、いつもの先生がそうであったように、どうぞお元気で、ますますご活躍くださいませよう、お祈り申し上げます。

伊東 辰彦 (前宗教音楽センター所長、国際基督教大学名誉教授)

岩崎真実子さんが退任されると聞き、感慨無量です。長年のご奉仕、本当にご苦労さ

でした。私自身は岩崎さんとはいろいろなところで一緒に仕事をした経験があり、何か困

った時には岩崎さんに相談すれば何とかなる、ということが何度もあったように思います。そのうち一番印象に残ることはと考えてみたものの、すぐには思いつかぬほどいろ

ろなことが次々と思いつき起こされます。しかし人生はまだまだ長い、今後で活躍を大いに

期待したいと思います。これからも変わることなく、何卒よろしく。

金澤 正剛 (前宗教音楽センター所長、国際基督教大学名誉教授)

岩崎真実子先生

長年にわたるICUでの尊いお働き、本当にありがとうございました。先生は私にとって誰よりも頼りになる先輩オルガニストで、30年近く親しくおつき合いをさせていただいています。これまでどのような相談をしても的確なアドバイスをくださり、明るい笑顔にいつも励まされました。感謝しかありません。先生のオルガン演奏は、そのお人柄のように、優しく暖かい音の中にしっかりと「芯」が内包されていて、聴いた人は皆幸せな気持ちになると思います。これからもずっとずっとオルガンを弾き続けてください。ますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。

菅 哲也 (主任オルガニスト)

岩崎さん、ICUでの長年のお働き、おつかれさま！アメリカ留学から颯爽と帰国されて間もなく、大学(副)オルガニストに着任当時の、ロンゲでキャピキャピの滌刺としたお姿は、今でも脳裡に焼き付いています。爾来45年有余、「何でもやるわよ」の前向きで大らかな姿勢で、コセコセ、クヨクヨせず色々な事に取り組まれ、私自身多くの場面で支えられ、助けられながら共に働けた事、今さらながら感謝しています。日本のオルガン界にとって無くてはならない存在、どうぞ益々のご活躍を!!

植田 義子 (前主任オルガニスト)

Many thanks to Iwasaki-sensei for her numerous contributions to musical life at ICU. I will never forget Iwasaki-sensei's enthusiasm and energy when we jointly organized the Sacred Voices event in 2016, as well as many other events and concerts. As well as being a top-class performer herself, Iwasaki-sensei's ability to communicate the magic of the organ to everyone from elementary school students to elderly academics has been one of the cornerstones of the SMC's success over many years. Her openness to many different kinds of music and her constant willingness to try out new ideas have been a huge inspiration to us all at ICU. I look forward to more collaborations in the future!

Matt Gillan (Ex-director of SMC)

岩崎先生、ICUの音楽シーンにおいて数々の貢献をしていただき、ありがとうございました。2016年の「Sacred Voices」をはじめ、多くのイベント行事やコンサートを共同開催した時の岩崎先生の熱意と行動力は忘れられません。岩崎先生自身がトップクラスの演奏家であることはもちろんですが、先生は小学生から年配の学者陣にまでオルガンの魅力を伝えることがおできになり、そのことが長きに渡ってSMCが成功し続けてきた礎の一つとなっています。また、さまざまな音楽を受け入れ、常に新しいことに挑戦する姿勢は、私たちICUのスタッフにとっても大きな刺激となっています。これからも、さらなるコラボレーションを期待しています。 マット・ギラン (前宗教音楽センター所長)



## リーガーオルガン・エッセー・リレー Memories of the Rieger Organ

### 東ヶ崎ゴードン茂氏の働き ICU 名誉教授 大西直樹 (連載その 2)

リーガーオルガンの ICU 教会への導入には、初代理事長の息子、ゴードン東ヶ崎茂氏の隠された働きが大きい。茂氏の晩年に直接うかがった話から二、三紹介したい。奥田耕天氏からオルガン演奏を学んでいた林佑子先生と東ヶ崎茂氏は、ICU 教会のオルガン導入に深い関心を共有していたが、林先生がリーガーオルガンを強く推奨していたことが、茂氏と JICU Foundation のショーロック氏との文通に記されている。この文通は ICU 図書館に所蔵され、アメリカ側のオルガン建設の募金活動の全貌がわかる。先行して開始された募金活動は、その後総額 3,185 ドル、当時の円換算で、1,146,600 円の募金総額が報告されている。その頃晴海で開催予定の貿易見本市にリーガーオルガンが出展されるという情報を東ヶ崎氏は掴んでいたが、見本市は中止された。しかし、この件が切っ掛けとなり東ヶ崎氏がリーガーオルガンの導入を理事会に伝え、理事会は財政支援はしないという条件で承認した。教会は、1968 年 11 月オルガン募金実行委員会を設立し、委員長星野命先生を中心に多難な募金活動が始まる。

オーストリアからの輸送費込みの設置総額は当時の金額でほぼ 2800 万円。奉献式の段階でリーガーオルガン会社への支払いは完済しているが、1200 万円の借金返済が残された。奉献式後の委員会年次報告には、虎の門ホールでの中村紘子支援コンサート開催 (収益 129 万円) やその他の募金活動結果が記録され、関連企業への 400 万円ほどの募金依頼もなされている。

委員会には、平山秀雄氏 (電波新聞社社長) と森川明氏 (NHK 主査) という大学や教会に無関係な二人の名前が含まれたが、そこにも東ヶ崎氏の意図があった。NHK の森川氏は東ヶ崎氏の従兄弟。その森川氏の友人が電波新聞社社長の平山氏で、彼は 240 万円もの借金の肩代わりをした。星野先生が返金のために彼を訪れている記録もある。NHK はマリー・クレール・アランとアントン・ハイラーによる ICU オルガンアカデミー演奏会の全国放映を 1973 年に行い、鳥居賞授与という画期的な出来事となった。その時使われたガリ版刷りの実況中継の台本が星野先生から図書館に寄贈されている。東ヶ崎茂氏のアイデアが様々な発展を見たことがわかる。

(Please visit our website for English translation)

### Editor's Note 編集後記

岩崎真美子先生のことは、オルガン研究会などの活動を通じてよく知っておりましたし、何度も演奏を拝聴したこともありました。2019 年に私が ICU に着任してから、先生の教会オルガニストとして、教師として、音楽家としてのお姿に身近に接することができるようになりました。それを通じて、岩崎先生が優れた演奏家というだけでなく、音楽を通じて常にへりくだって奉仕なさるお方だ、ということを知るようになりました。

2019 年のクリスマス・コンサート「スイスのクリスマス」では、ほのほのとした雰囲気なかで、ヨーデルの伴奏をなさっていました。例えば、礼拝堂をいっぱいにしたコンサートはあれが最後でした。そして、その後 2 年にわたりコロナ・パンデミックとの戦いが始まりました。演奏会は次々と中止になり、音楽家にとっては、とても辛い日々が始まったのですが、岩崎先生のまなざしは、先人たちのもつと大変な苦労や、コロナで苦しんでいる多くの方たち、そして未来を担う若い学生たちの学びにありました。岩崎先生とのお話や、レッスンを受けている学生たちからは、そのように私は感じました。

私が来るずっと以前から、43 年ものあいだこの大学のオルガニストであられ、ICU の歴史を担ってくださったことに心から感謝します。そして、これからもお元気で活躍くださいますようお願いいたします。

宗教音楽センター長 佐藤望

ご寄付頂いた方に ICU の周年記念 CD やクリアファイルを差し上げます。

Donate for the ICU organ and receive free CDs and plastic folders. New CD for the 50th anniversary of the Rieger organ will be released shortly.

- ICU オルガンの世界 I The world of ICU Organs I
- 大学礼拝堂オルガン奉献 30 周年記念  
The ICU Rieger organ: The 30th Anniversary
- 国際基督教大学 創立 50 周年記念  
ICU 50th Anniversary Celebration Gabriel Fauré REQUIEM

一口 1000 円です。詳しくは HP をご覧ください。

For details, please see → <https://office.icu.ac.jp/smc/about/>

